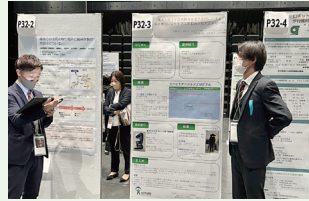


New Topics 最近の出来事



第43回 回復期
リハビリテーション
研究大会 in 熊本で
ポスター発表しました！



ベトナムより、
新しく1名の技能実習生が
来られました！



夢と情熱を持つ仲間たち！
4月から入職した
新メンバーです！

新任師長紹介



一般病棟 右崎 眞珠美 看護師長

4月から3階一般病棟に看護師長として勤務している右崎(みぎさき)です。これまで患者さんご家族の意向を大切に患者さん主体の看護を目指してきました。これからもこれまでの経験を活かし、力を尽くしたいを思います。



回復病棟 中本 香奈 看護師長

4月より回復病棟の看護師長となりました中本です。患者さんのためのより良い医療・看護が提供できるよう、回復期病棟における多職種連携が円滑に図られ、チーム力向上に向けた風通しの良い病棟作りに取り組みたいです。

SORABITOを知る！

Vol.

Relay Interview 03
リレーインタビュー

3階病棟 看護師

畑 龍之介

サウナ大好き！



私にはいくつかのストレス発散方法があります。その中で皆さんにお勧めしたい方法の1つがサウナです。私がサウナ好きになったのは専門学生の際に「整う」感覚を初めて味わってからです。今では1人でも週2回は必ず通うほどサウナ通になっています。私のルーティンは体を洗う(先に体を洗うことで毛穴が広がり発汗しやすいとか…)、サウナに10分程度入り、水風呂からの外気浴。これを3回繰り返すと頭も目もスッキリし「整う」感覚が味わえます。ぜひ興味のある方は試してみてください。愛媛県内で個人的にお勧めの場所は「そらともし」「ていれぎの湯」「清正の湯」です。今後、一番行ってみたいサウナは愛知県名古屋にあるKIWAMISAUNAです。

NEXT! 次号 Vol.04は… 4階病棟のsorabitoへ！

最優秀 デイン ティ キエウ リン
(ケアワーカー)

作品タイトル

「素敵空&菜の花」

この日の景色は、故郷を遠く離れた私達に家族のような温かい気持ちを与えてくれました。



優秀

井上 由衣
(診療放射線技師)

作品タイトル 「ネモフィラ・ブルー」



佳作

井上 愛
(医師)

作品タイトル 「春と空」



基本方針

患者さん中心の医療 「笑顔であいさつ」を心掛け、患者さん中心の心の通った医療を行います
質の高いチーム医療 「専門職としての知識・技術の向上」に努め、質の高いチーム医療を実践します
地域に貢献できる医療 「ともに生きる」の精神で、地域の皆さまと安心して暮らせるまちづくりに取り組みます

医療法人同仁会
おおぞら病院
OOZORA HOSPITAL



〒791-8555 愛媛県松山市六軒家町4-20 FAX 089-989-6619

TEL 089-989-6620 (代表) 平日 9:00～17:00 (休診日を除く)

JR	JR松山駅より タクシー約3分 または伊予鉄市内電車に乗換
伊予鉄電車	伊予鉄市内電車・城山線 萱町六丁目駅下車 徒歩約5分 伊予鉄郊外電車・高浜線 古町駅下車 徒歩約10分
バス	勝岡・運転免許センター線 北宮西町バス停 徒歩約3分



おおぞら病院 広報誌「そら」

SORA

Vol. 35

2024.05

TAKE FREE

「特集」おおぞら診療の最前線

脳卒中

リレーインタビュー 畑 龍之介

サウナ大好き！

最近の出来事

新しい出会いや行事が
盛りだくさん

「大好評」

写真コンテスト結果発表！

第10回 テーマ「空」

脳卒中をチームでサポート！

おおぞら病院の
麻痺治療
促進反復
療法

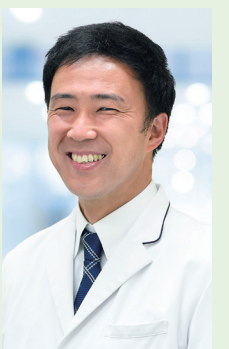
表紙画像
反復訓練ができる上肢リハビリ装置
「Cocoroe AR2」

MESSAGE

先日報道番組を見ていると、物流業界で業績が好調な企業の紹介がなされていました。インタビュー中、社長から『自社は何のためにあるのか？』『利用者さんは何を望んでいるのか？』を追求していくことで、他社にはないサービスが生まれ、利用者さんからの信頼を勝ち取っている。自分達の効率性よりも、利用者目線の利便性にこだわることで、利用者増加や業績にも反映し、またその好循環の中で自分達の効率性も改善していくことが出来るのだというコメントがありました。

職種は違いますが、当院でも『おおぞら病院は何のためにあるのか？』『患者さんは何を望んでいるのか？』を考え続けて、実行していく事が大切だと感じます。その答えは当

院の理念である、『地域の皆さまに親しまれ、信頼され、満足される病院を目指します』の中にあると思います。しかしこの数年にも及ぶコロナ禍で、スタッフを守り医療機能を維持する事に主眼を置いていたり、この4月から始まった医療業界での働き方改革への取り組みで、時間内に仕事が終わるように様々な活動を業務時間内に詰め込むとすると、スタッフ優先の考え方となってしまうと、患者さんファーストの精神が薄れやすい環境にあったと感じます。そこで2024年度の目標は医療の原点に立ち返り、『患者さん中心の医療を実践する』としました。患者さんの気持ちに寄り添い、信頼される医療を提供できるようにスタッフ一同努力していきたいと思っています。



おおぞら病院 院長
吉田 直彦

主席診療部長
脳神経外科
須賀 正和

脳卒中

脳卒中とは脳血管障害であり、脳の血管に何らかの問題が起こり、脳に障害をきたす病気です。

脳の血管が詰まる「脳梗塞」、脳内の細い血管が破裂する「脳出血」、脳血管にできた動脈瘤が破裂する「くも膜下出血」の3つのタイプがあります。(図1)

脳卒中は運動障害や言語障害などの後遺症が残ることが多く、寝たきりの約3割は脳卒中の後遺症によるものです。このため脳卒中は要介護となる原因の第2位となっています。

脳卒中の治療においては発症直後の速やかな治療とともに、リハビリテーションの早期開始と継続が重要です。

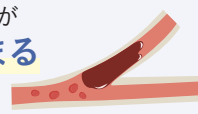
発症約1～6か月までが回復期となり、この段階のリハビリテーションは、リハビリテーション専門の病院や病棟で行います。脳卒中の急性期・回復期・維持期を通じて目指すリハビリテーションの目的は①脳の機能を回復する、②残された機能を強化する、③環境を整えるの3点です。2025年に向けて地域包括ケアシステムの中でリハビリテーションに求められる役割は大きくなります。

また脳卒中は生活習慣を改善することや、生活習慣病を改善することで発症を予防できます。

脳卒中を予防するために【脳卒中予防の10か条】(図2)をもとに自分の体調や生活習慣を見直しましょう。

(図1)

脳卒中について

血管が
詰まる

脳梗塞

アテローム血栓性脳梗塞
ラクナ梗塞
心原性脳塞栓症血管が
裂ける

脳出血

くも膜下出血

※脳動脈瘤の破裂

脳卒中では次のような症状が突然起こります

- 片方の手足・顔半分のマ痺・しびれが起こる
- ロレツが回らない、言葉が出ない、他人の言う事が理解できない
- 力はあるのに、立てない、歩けない、フラフラする
- 片方の目が見えない、物が2つに見える、視野の半分が欠ける
- 経験したことのない激しい頭痛がする

重症のときは意識がなくなることがあります

(図2)

脳卒中予防10か条

日本脳卒中協会

- ① 手始めに 高血圧から治しましょう
- ② 糖尿病 放っておいたら悔い残る
- ③ 不整脈 見つけ次第すぐ受診
- ④ 予防には たばこを止める意志を持って
- ⑤ アルコール 控えめは薬 過ぎれば毒
- ⑥ 高すぎる コレステロールも見逃すな
- ⑦ お食事の塩分・脂肪 控えめに
- ⑧ 体力に合った運動 続けよう
- ⑨ 万病の引き金になる 太りすぎ
- ⑩ 脳卒中 起きたらすぐに病院へ

1に運動 2に食事

しっかり禁煙

最後にクスリ

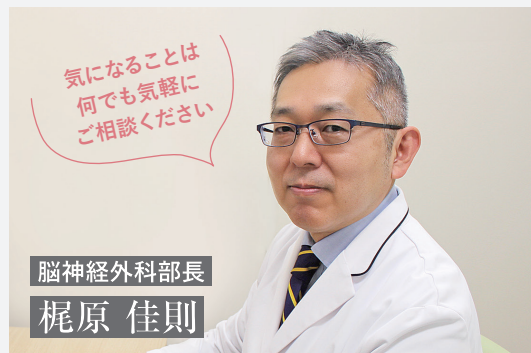


脳神経部門に3人目の先生が着任しました！

4月より着任させていただくこととなりました、脳神経外科の梶原佳則です。

広島大学を卒業し、本年3月までの12年間、松山赤十字病院に勤務させていただいておりました。広島大学では脳腫瘍を専門としており、松山赤十字病院では主に脳卒中の治療に携わってきました。

これまでの経験を元に、おおぞら病院では、外来、病棟、訪問診療に携わり、地域医療に貢献させていただければと存じます。おおぞら病院の脳神経部門では、首席診療部長の須賀先生、脳神経センター長の富田先生に加わり3人目となります。病院スタッフの皆様いろいろな教わりながら、より充実していけるように頑張りたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

気になることは
何でも気軽に
ご相談ください脳神経外科部長
梶原 佳則

“脳卒中”を

チームでサポート！



部門を越えて当院全体で患者さんの身体や生活に合った治療を検討し、患者さんの意志を尊重しながら治療を支えています。

リハビリテーションセンター より

おおぞら病院の麻痺治療

促通反復療法



川平 和美 先生

おおぞら病院では脳卒中や脊髄損傷による麻痺の治療として【促通反復療法】を行っています。鹿児島大学名誉教授の川平和美先生が考案した治療方法で、病気によって壊れた神経回路を再建・強化することに特化した治療方法です。

“楽にたくさん動かす”を実現します！

促通反復療法独自の運動パターンを反復練習します。リハビリにおいて運動回数・量はとても大切です。野球やテニスでも10回の素振りより100回の素振りのほうが早く上手になりますよね。セラピストの適切な介助・誘導と電気刺激や振動刺激などの併用療法を組み合わせ“楽にたくさん動かす”治療を行っています。

失語症



失語症はことばを自由につかうことが苦手になってしまう症状です。ことばの能力は大きく「聞く・話す・読む・書く」の4つに分けられ、失語症といってもそれぞれの能力がどのように障害されるかで症状の程度は変わってきます。言語聴覚療法では評価をした上で、その人にあったリハビリを行ない、また患者さんを支える周りの人たちに対しても適切なコミュニケーション方法などを提案・指導していきます。目には見えない障害で理解されにくく、誤解を受けやすいため、一人でも多くの方が失語症を理解し、ご支援いただければと思います。

ボツリヌス治療について



脳卒中の後遺症の一つに、「痙縮」という手足の筋肉が緊張しすぎてつっぱる状態があります。手指が握りしめたまま開かない、肘が曲がり伸びにくいなどの症状が現れます。ボツリヌス治療は、ボツリヌス菌が生成する天然のたんぱく質を筋肉内に注射してつっぱりを和らげる方法で、注射後に十分なりハビリが必要です。この治療は手足の痙縮に対して保険適用され、脳卒中治療ガイドラインでも推奨されています。当院では上甲副院長・リハビリセンター長が触診に加え、エコー装置を使用してより効果的な治療を行っています。